

仏さまにお参りする時に、皆さんは手を合わせます。その「合掌」について考えてみたいと思います。

手を合わせるとは、お参りの作法だと言ってしまえばそれまでですが、一体、手を合わせるとは、どういう意味があるのでしょうか。

手は、人間の行動・働きを意味しております。俗に、「あの手、この手」という言葉がありますが、私どもは、毎日毎日、あの手この手と欲に働き、自ら動き回っています。その欲の働きをしばらく休み静かに考えてみる。それが、まず合掌の意味だと言われます。

千手観音さまの姿を思い浮かべますと、体中からたくさんの手が出ています。でも、必ず真ん中の手は合掌しています。このことは、揮む手からすべてが始まることを意味しております。

私が思っているのは、片方の手が私で、もう片方の手が仏さまであります。亡き人に手を合わせる時は、片方が亡き人であります。手を合わせるとは、私と仏さまが一つになることです。私と亡き人が一つになることです。日常生活の中で、私一人では必ず間違いをおこします。その時、仏さまにたずねるのです。亡き人の願いに出会うことです。もう少し深く考えますと、手を合わせておって下さるのは、私たちより先に仏さまです。私たちが忘れておっても、仏さまは私のことを忘れず、ずっと手を合わせ続けておって下さるのです。

そういうことを考えますと、私たちは、申し訳なさが湧いてきます。早く本当の合掌のできる身に近づきたいものです。